

足立区戦没者・東京大空襲犠牲者合同追悼式 議長追悼の言葉

本日ここに、平和を願う区民の皆様と共に、足立区戦没者・東京大空襲犠牲者合同追悼式を挙げるにあたり、足立区議会を代表し、謹んで追悼の言葉を捧げます。

幾多の悲しみをもたらした先の大戦の終結から、早や八十有余年の歳月が流れました。

あの苛烈を極めた戦いにおいて、300万人を超える尊い命が失われたことを思うとき、今なお胸に迫るものがあります。

ここ足立区も、度重なる空襲を受け、千住を中心とした地域が甚大な被害に見舞われ、多くの区民が犠牲となりました。亡くなられた方々のご無念、そして最愛の肉親を失われたご遺族の皆様の中を拝察いたしますと、誠に痛惜の念に堪えません。

戦後、我が国は、平和国家として歩み、ひたすら国の再建と発展に努めてまいりました。しかし、昭和、平成、そして令和へと時代が移り変わり、戦後生まれの世代が大多数を占めるようになった今、この豊かで安穏な社会を当然のものと考えてしまいがちです。

今日、私たちが享受している平和と繁栄は、戦争で命をかけて我が国を守られた方々の尊い犠牲と、ご遺族の皆様のご労苦の上に築かれたものであることを、私たちは決して忘れてはなりません。そ

して、悲劇を二度と繰り返さないためにも、その記憶を風化させることなく、未来へと語り継いでいかなければならないと考えます。

足立区議会といたしましても、引き続き、あらゆる人々が希望に満ち、平和で心豊かに暮らせる社会の実現に向け、不断の努力を重ねていくことをお誓い申し上げますとともに、全ての御霊の安らかならんことを、心からお祈り申し上げ、追悼の言葉といたします。

令和8年4月13日

足立区議会議長 ただ 太郎